

横浜美術館 2015 年度企画展スケジュール

石田尚志 渦まく光

2015 年 3 月 28 日 (土) ~ 5 月 31 日 (日)

昨今、現代美術と映像の領域で大きな注目を集める石田^{いしだたかし}尚志の初の大規模な個展です。石田尚志(1972 年生)は、絵画制作のプロセスである「絵を描く」という行為に着目し、それを映像メディアによって作品化します。その映像制作で石田がたびたび用いるのが「ドローイング・アニメーション」の手法です。抽象的な線を少しずつ描いてはコマ単位で撮影するという行為を反復することによって紡ぎだされる「動く絵」。そこには、映像メディアが生まれながらにもつ視覚的魅惑が凝縮されています。

本展では、横浜美術館での滞在制作作品を含む過去の代表作に、新作の映像インスタレーションを加えた約 30 作品に、パフォーマンスや上映会などの多彩な関連イベントも交えて、様々な表現領域を往還する独創性に富んだ石田の芸術の魅力をご紹介します。

主催：横浜美術館、読売新聞社

蔡國強展

2015 年 7 月 11 日 (土) ~ 10 月 18 日 (日)

蔡國強^{さいこくきやう} (Cai Guo-Qiang 1957 年、中国福建省泉州生) は、中国を代表する現代美術家のひとりです。自由な創作活動の場を求めて 1986 年に来日。日本に滞在しながら火薬を使用した作品で国内外の注目を集めました。1995 年に渡米し、現在はニューヨークをベースに世界各地で作品を発表し、高い評価を得ています。2008 年の北京オリンピックでは、視覚・空間ディレクターとして活躍し、開会式、閉会式での花火の演出が話題になりました。本展は、蔡國強の首都圏では初めての本格的な個展であり、主に日本初公開の作品で構成されます。円熟した蔡國強の新たな世界が、多くの人々を魅了するでしょう。

主催：横浜美術館

中島清之展

2015年11月3日（火・祝）～2016年1月11日（月・祝）

中島清之（1899～1989年）は、日本美術院の中核として活躍した横浜ゆかりの画家です。花鳥、人物、風景、古典芸能、仏教主題、現代風俗、そして抽象表現に至る幅広い画域を展開し、最晩年には横浜の三溪園の障壁画を手がけました。青年期の安雅堂画塾での古画研究に裏づけられた巧みな筆技に抛りつつも、同じ様式を繰り返すことを厭い、常に大きく画風を変えて観る者を驚かせたことから、「変転の画家」とも評されました。本展では、代表作とともにスケッチや画稿もあわせて展示し、作品の制作過程や画家の関心の在り様を探ります。大正から戦後昭和という激変と混沌の時代に生きた画家が、一見次々と変貌する制作の中で貫こうとしたものは何であったのか、画家の全容に迫り、その軌跡をたどります。

主催：横浜美術館

村上隆の眼—Kaikai Kiki コレクション展（仮称）

2016年1月30日（土）～4月3日（日）

現代日本を代表するアーティストのひとりである村上隆（1962年生）は、作家活動だけでなく、評論家、ギャラリスト、プロデューサーとして多岐にわたる活動を展開する傍ら、近年は国内外の様々な美術品を積極的に蒐集し続けています。作家の独自の眼で選ばれた、その知られざる Kaikai Kiki コレクションは、現代美術を中心に骨董や現代陶芸にまで及んでいます。今回、これらを本展において初公開することによって、作家の幼少期の原体験や若き日に受けた刺激・共感に注目、美意識の源泉や価値創造のメカニズムについて考えるとともに、既存の美術の文脈に問いを投げ掛けます。

主催：横浜美術館

尚、村上隆の個展「村上隆の五百羅漢図展」が下記の通り開催されます。

「村上隆の五百羅漢図展」

会期：2015年10月31日（土）～2016年3月6日（日）

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53F）

主催：森美術館、朝日新聞社、NHKプロモーション